

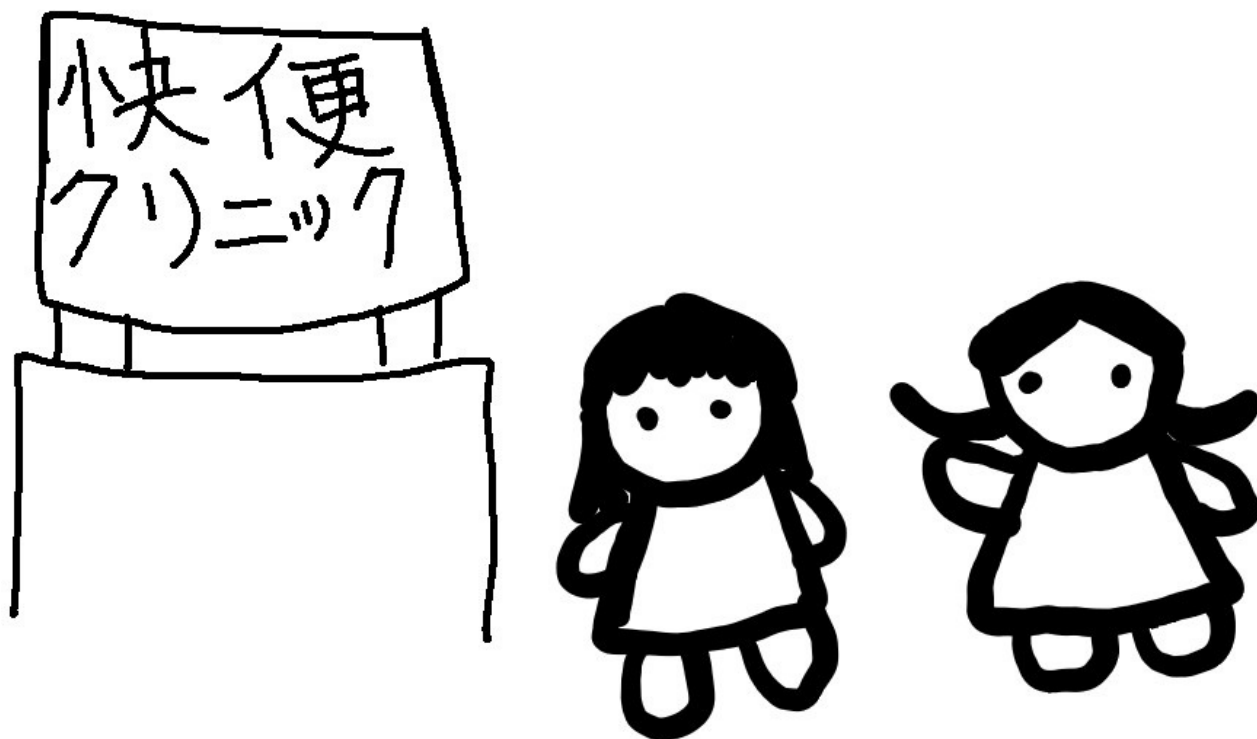
つまりちゃん





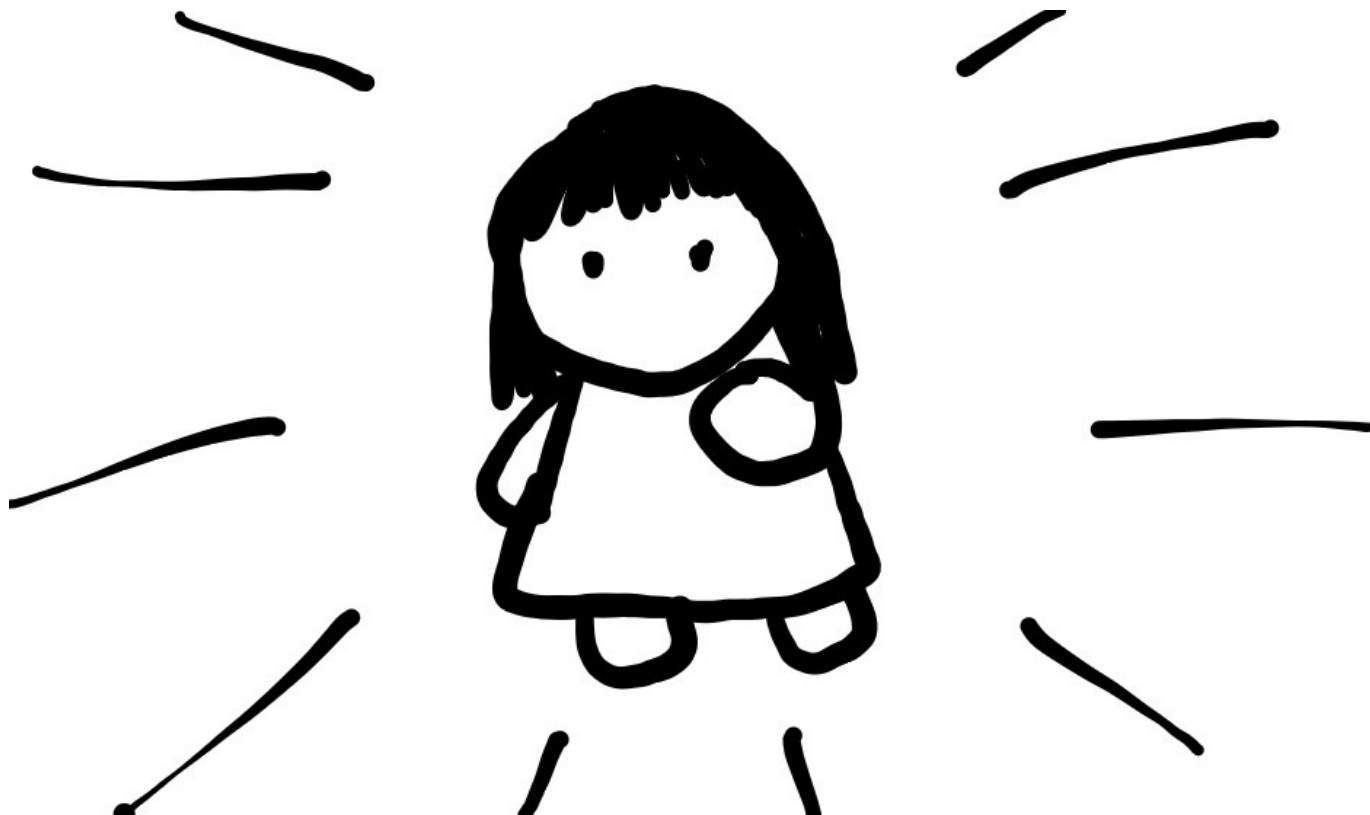
ある所に、つまりちゃんという女の子がいました。

つまりちゃんは、常に便秘でした。



ある日、お友達がつまりちゃんに言いました。

「つまりちゃん、あそこに在る快便クリニックへ行ってみてはどう？」



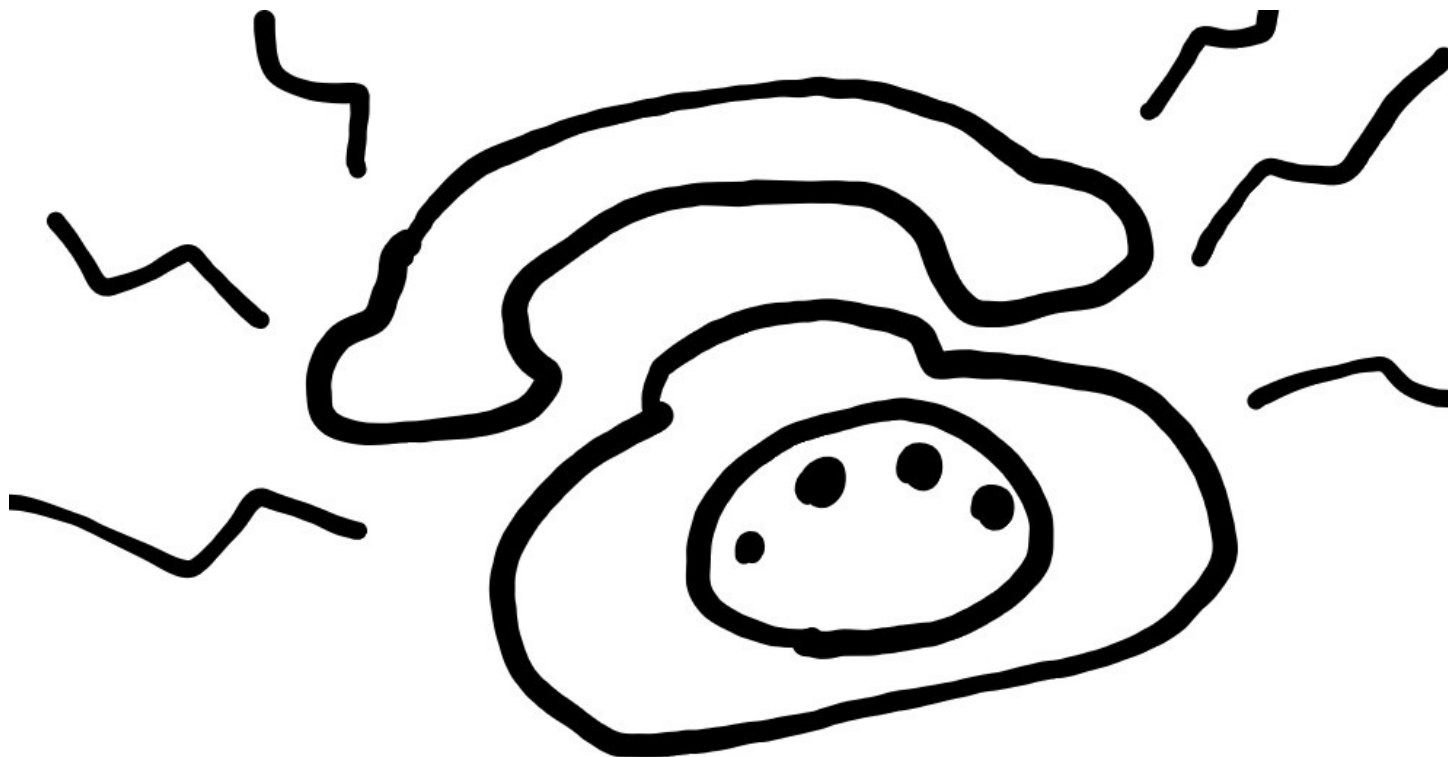
しかし、つまりちゃんは言いました。

「いいえ！気合いと努力で治します！」



次の日の朝、つまりちゃんはトイレに居ました。

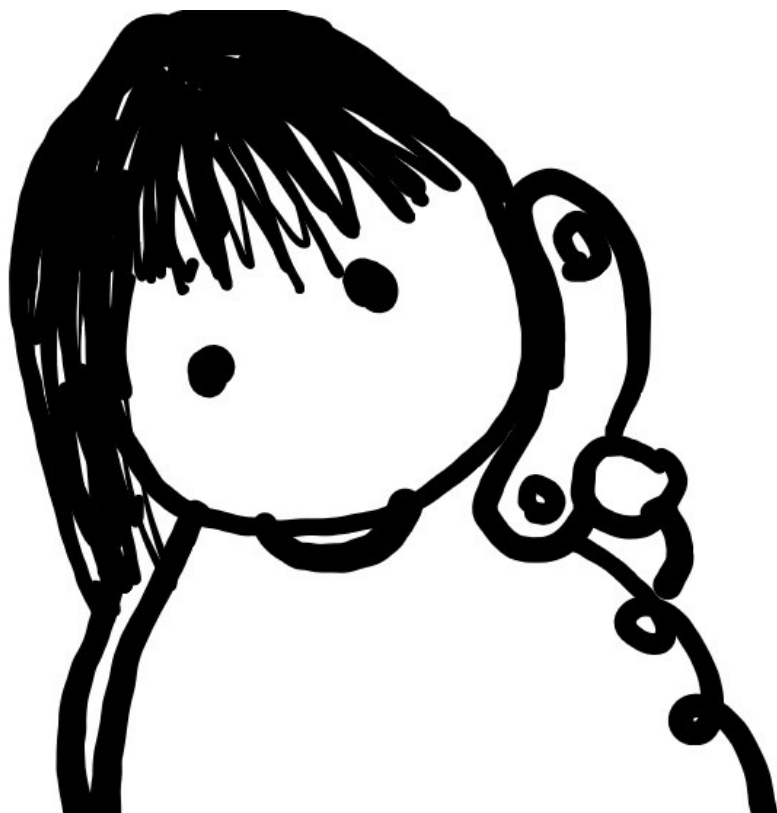
気合いと努力で、頑張っていたのです。



つまりちゃんの職場では、いつまで経ってもつまりちゃんが来ないので、皆心配していました。

そこに、一本の電話が。

ひょっとしたら、つまりちゃんかもしれない！



電話の主はやはり、つまりちゃんでした。

「つまりちゃん、どうしたの?! 皆、心配しているよ!」

「ごめんなさい、今日はお仕事お休みします。」

「一体、何があったの?」

「切れ痔になっちゃって・・・」



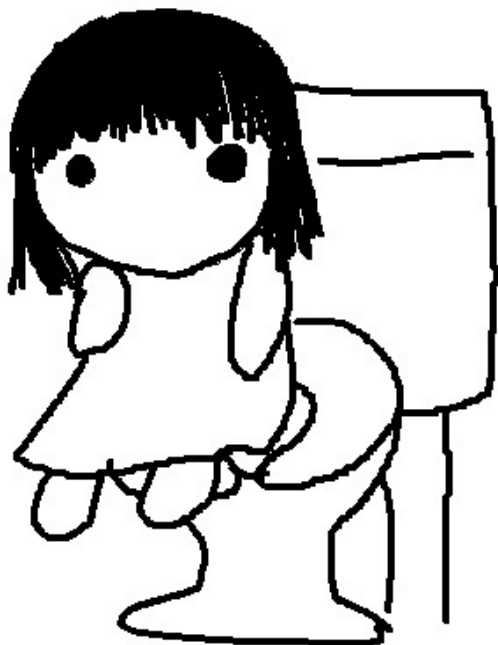
快便クリニックへ行かなかったつまりちゃんは、肛門クリニックへ行く事になりました。

つまりちゃんは、何でもかんでも気合いや努力で何とかするものではない、と思ったのです。

【終わり】

ある所に、つまりちゃんという女の子がいました。

つまりちゃんは常に便秘でした。



大腸念力2

ある日、つまりちゃん達が外でお仕事をしていると、雨が降ってきました。

「困ったなあ、止まないかなあ？」

皆が困っていると、つまりちゃんが思いつきました。

「そうだ！私の大腸念力でこの雨を止めよう！」

つまりちゃんは、自分の大腸に詰まったうんちの力を念力として、色々な能力を使う事ができるのです。

つまりちゃんはさっそく念じました。

「大腸念力～！！」



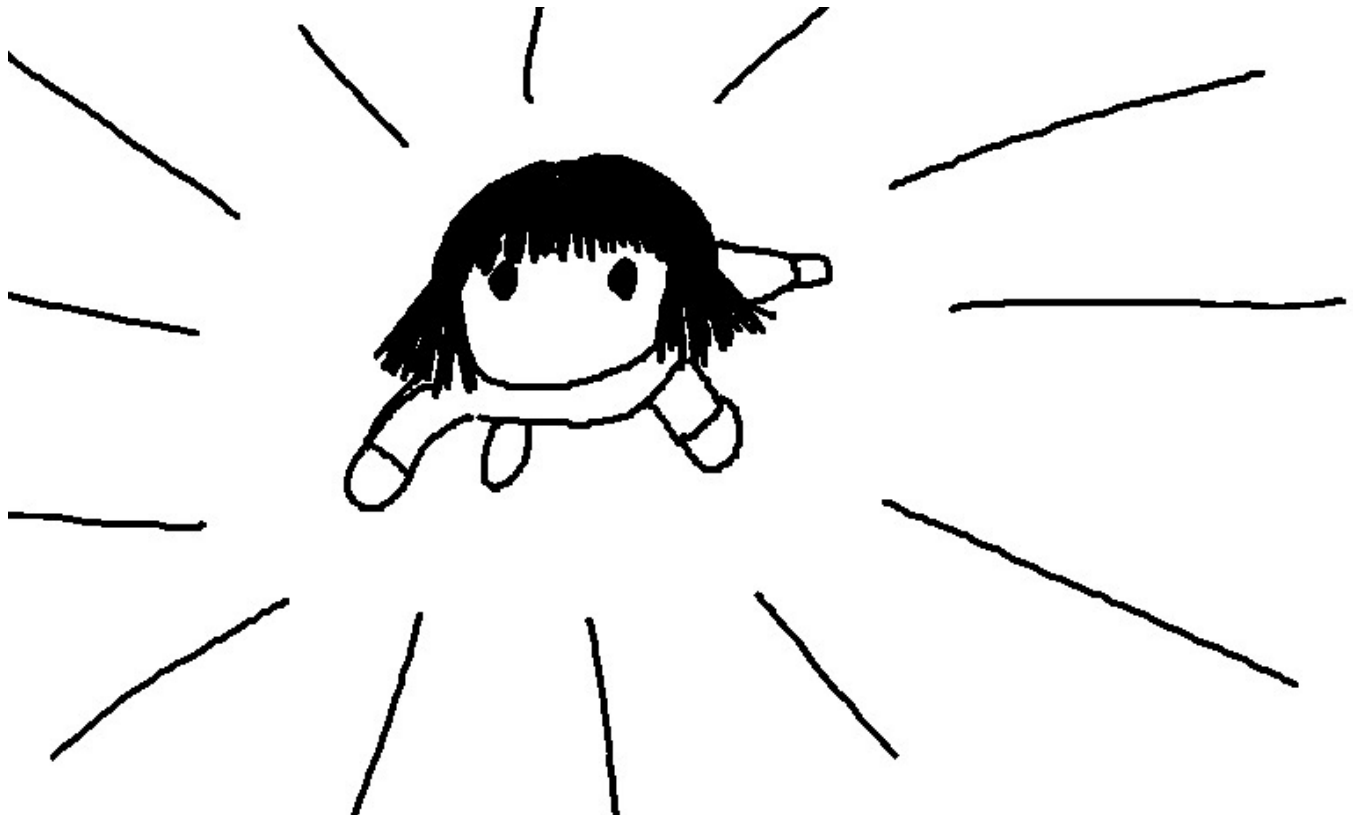
ところがいつまで経っても、雨が止みません。

つまりちゃんは大切な事を思い出しました。

「そうだった・・・今朝は私、珍しくうんちが出たのだった！！どうしよう、大腸がうんちでパンでなければ大腸念力を使う事ができない！」

そこでつまりちゃんは、職場の仲間達に向かって叫びました。

「みんな！オラにうんちを分けてくれ！たのむ！」



「・・・・・・・・」

皆はつまりちゃんから目を逸らしたり、冷たい目を向けたりしました。

皆が仕事をし易い環境を作るために、必死なつまりちゃんに。

世間の冷たさを痛感したつまりちゃん。

「他人は当てにならない・・・自分でなんとかしなければ！」

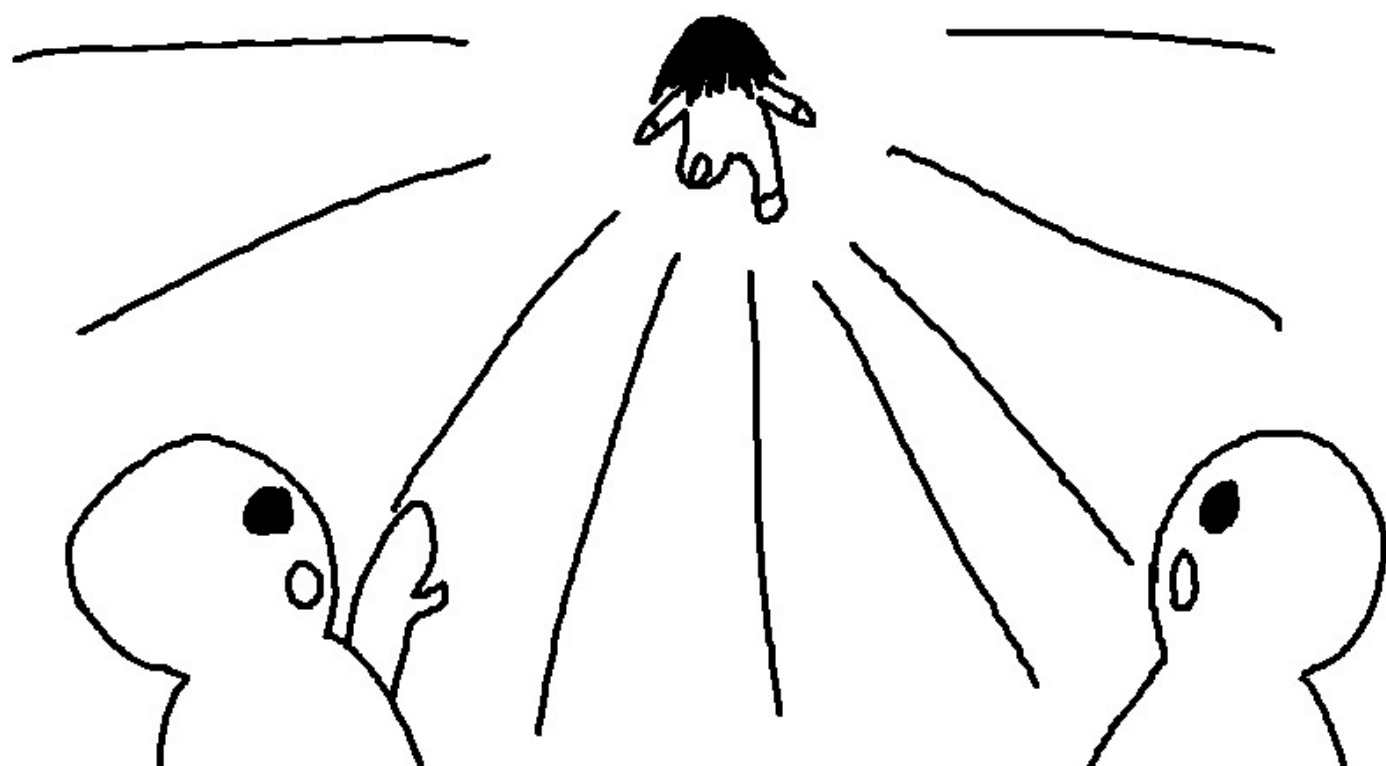
つまりちゃんは走り出しました。

「どこへ行くの?! つまりちゃん?!」

びっくりした皆が、思わず叫びます。

「コンビニ！」

つまりちゃんは、既に遠い所からそう答えました。



コンビニに着いたつまりちゃんは、肉まんやフライドチキン、チョコレートケーキにシュークリーム等の食物繊維のほとんど入っていない、便秘になりそうな大好物を買い物かごに入れ始めました。

もうすっかり常連客になっているつまりちゃんの、そんな様子を見た店員さんは、いつも以上の量の多さに少し驚いています。

そして買い込んだ食品を、むしゃむしゃ食べながら職場へと帰って行きました。

その様子を見たコンビニの店員さん達は

「よほどお腹が空いていたのねえ」

と話しています。



口の中で肉まんを、モグモグ咀嚼しながら、つまりちゃんは再び大腸念力を使おうとします。

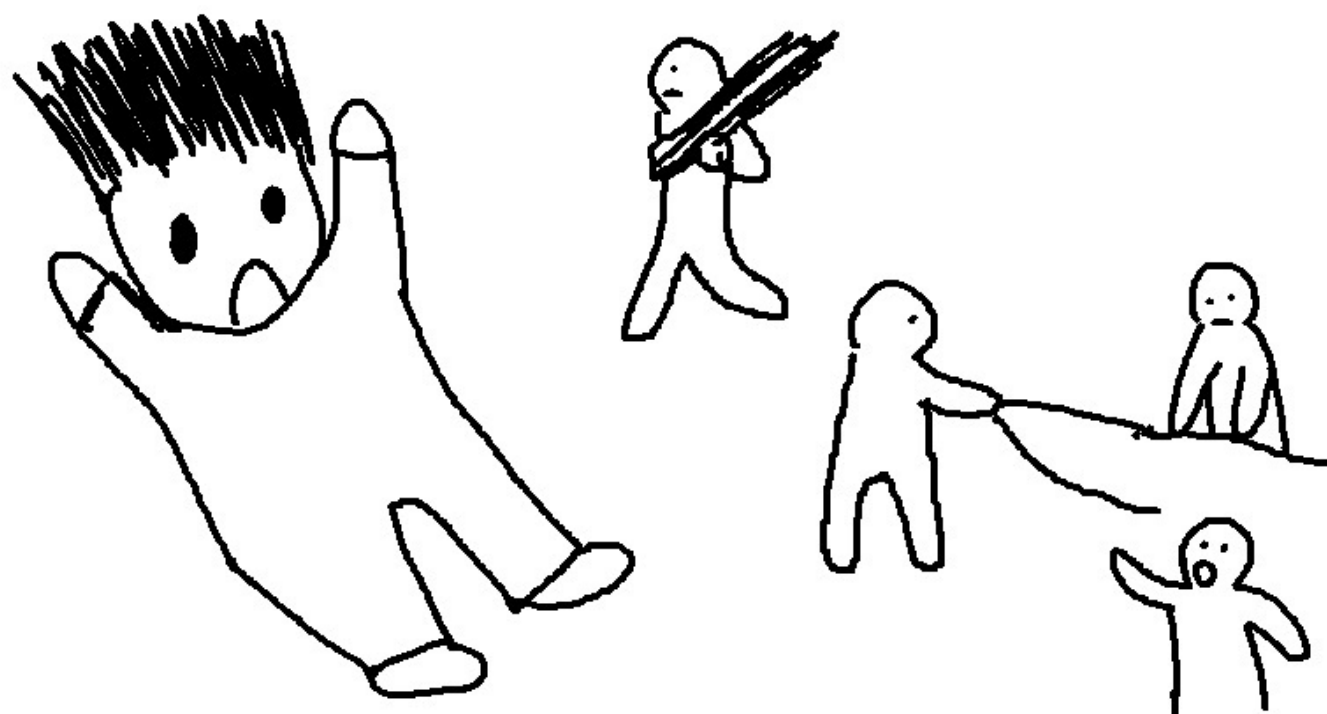
「よーし！これだけ溜め込めば、今度こそ大腸念力を・・・」

ところが職場の皆は、既に後片付けを始めています。

「つまりちゃんがコンビニ行ってる間に、仕事が全部終わっちゃったよ。」

大腸念力の活躍の場は無く、後には意味も無く便秘になったつまりちゃんと、つまりちゃんの大腸と対照に痩せた財布が残ったのでした。

【おしまい】



命の価値

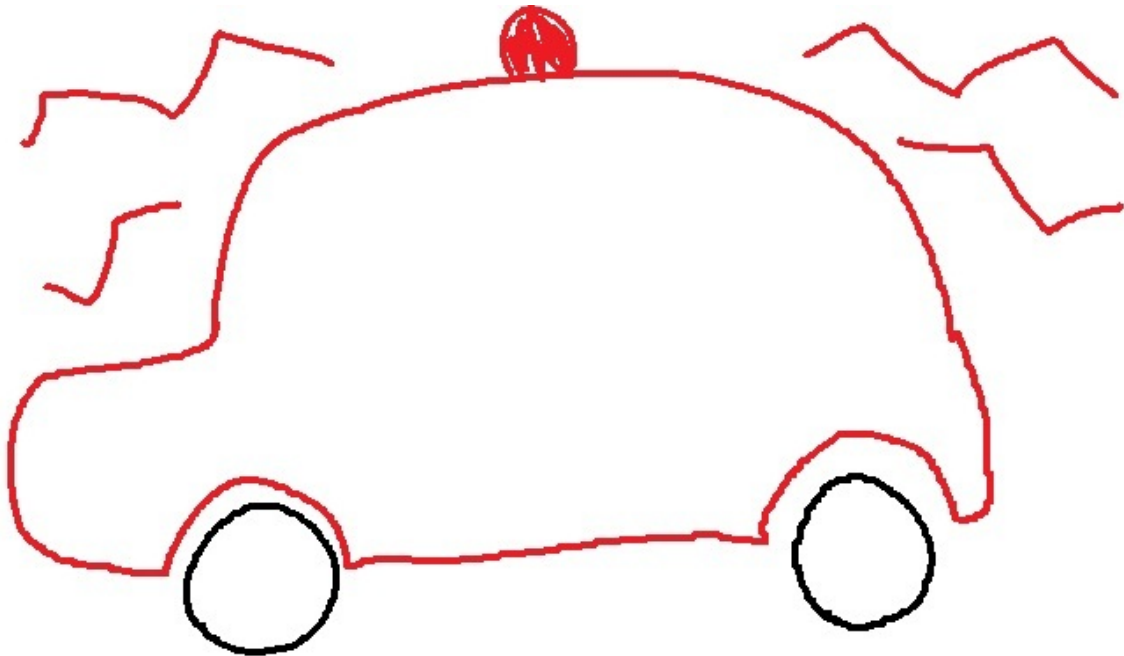
ある所に、つまりちゃんという女の子がいました。

つまりちゃんはある日、職場の上司に相談しました。

「お腹が痛いので、早退して良いですか？もう数か月、うんちが出ていないのです！」

「それは大変だ！すぐに救急車を呼ばなければ！」

びっくりした上司は、すぐに救急車を呼びました。



命の価値 2

病院に担ぎ込まれたつまりちゃん。

彼女のレントゲン結果を見た医師は、驚愕しました。

「なんという便の量だ！」

心配してやってきた、つまりちゃんのご両親は恐る恐る、医師に尋ねました。

「先生、うちの娘は助かるのでしょうか？」

「お二人とも・・・どうして・・・どうして、こんなになるまで、放っておいたのですか！」

つまりちゃんの両親は泣き崩れました。

他の医師や看護師達も、つまりちゃんの便秘に驚愕し、こう言いました。

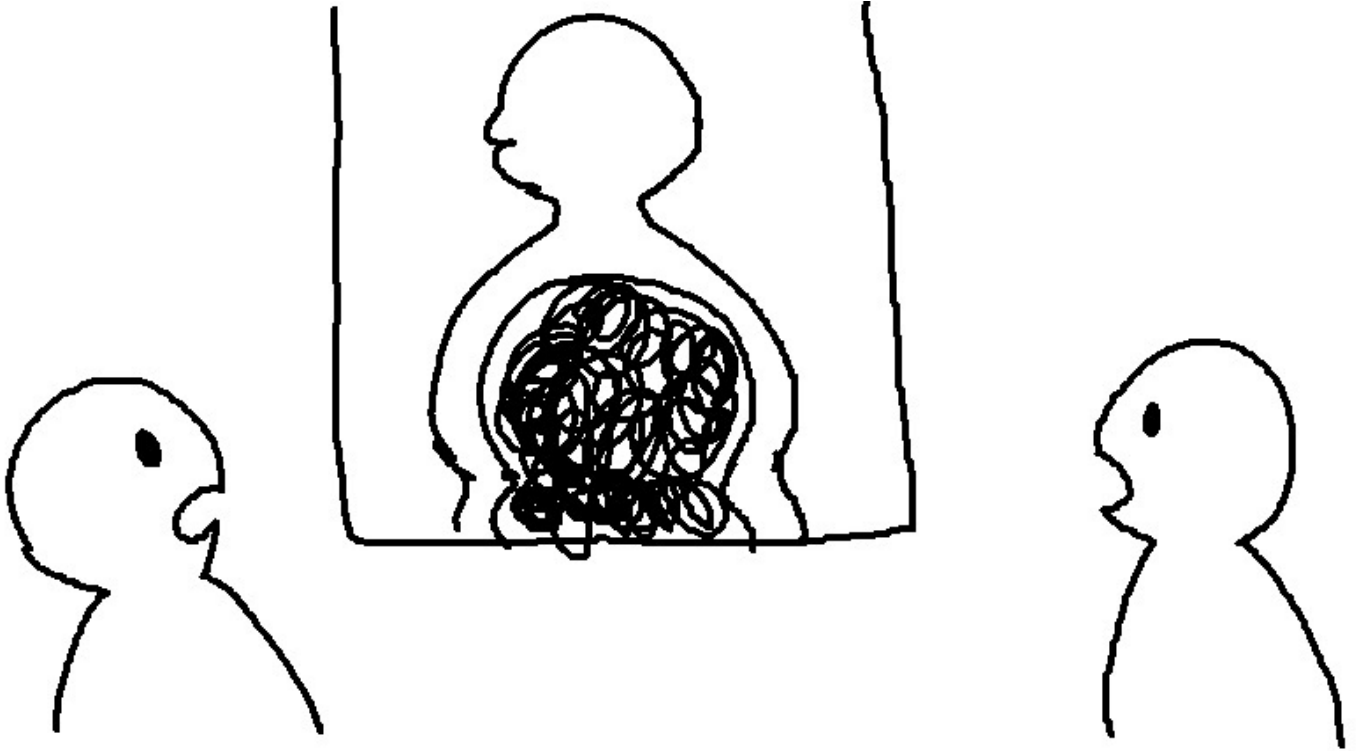
「先生、この患者の便を摘出すれば、世界中がうんちまみれになってしまう！」

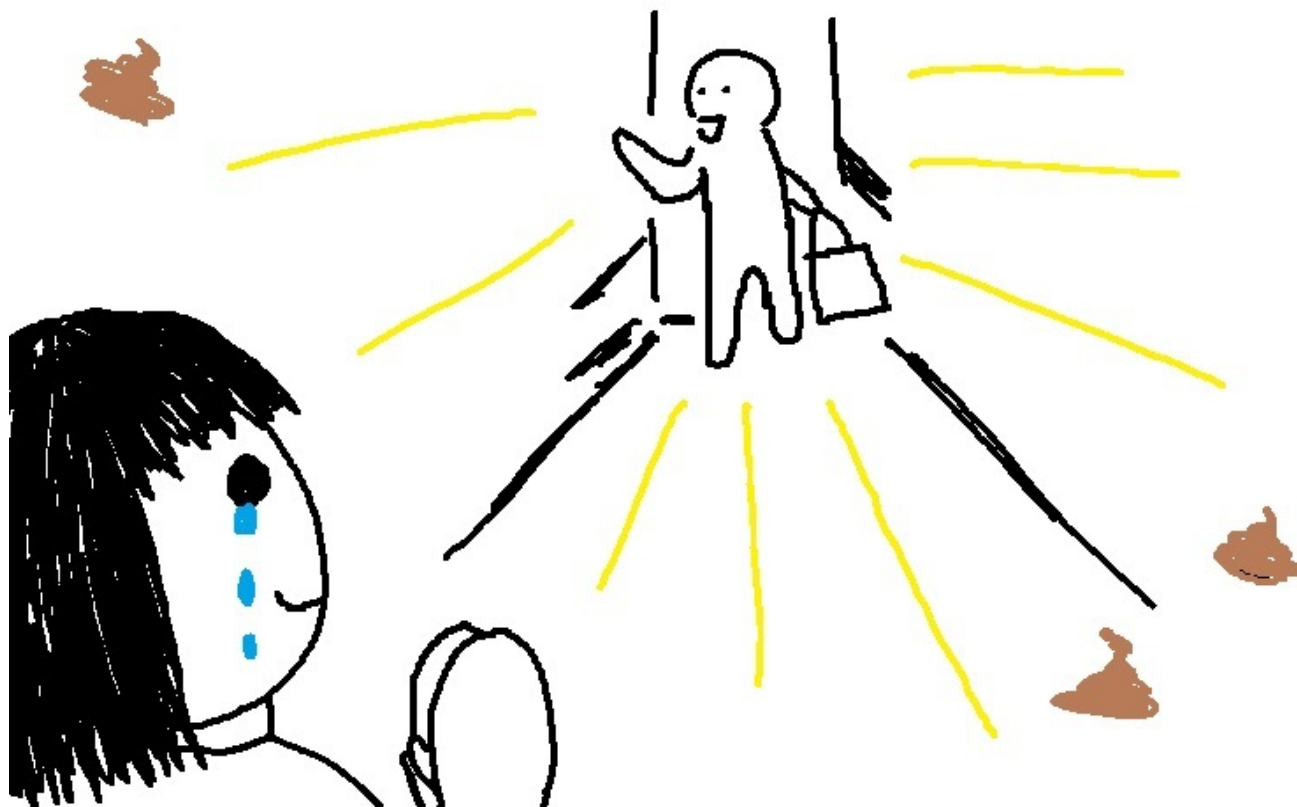
「しかし、このままでは患者が・・・」

「一人の患者の命と引き換えに、世界中を滅ぼすのですか？！」

「目の前にいる、一人の命も救えずして、医師と名乗れるか！」

こうして、つまりちゃんに手術が施されました。





手術は大成功。つまりちゃんは、一命をとりとめました。

しかし世界中が、つまりちゃんのうんちまみれで大変なことになっています。

「臭いー！」「ヴォエ！」「キモい～！」

世界中で、阿鼻叫喚が聞こえます。

助かったつまりちゃんは、医師にお礼を言いました。

「先生、ありがとうございました。でも、ごめんなさい、私のせいで病院を解雇されて・・・」

「君のせいじゃないよ、当然の事をしたまでだ。それに、私は自分のやった事を後悔していない
。」

人の命の価値に、差などつけるべきではないし、多数のために一人を犠牲にして得られる平和
など、本当の平和ではない。」

【おしまい】

ある所に、つまりちゃんという女の子がいました。

つまりちゃんは、常に便秘でした。

ある日、近所の公園の前を通りかかると、子供たちが浣腸し合って遊んでいます。

それを見たつまりちゃんは、閃きました。

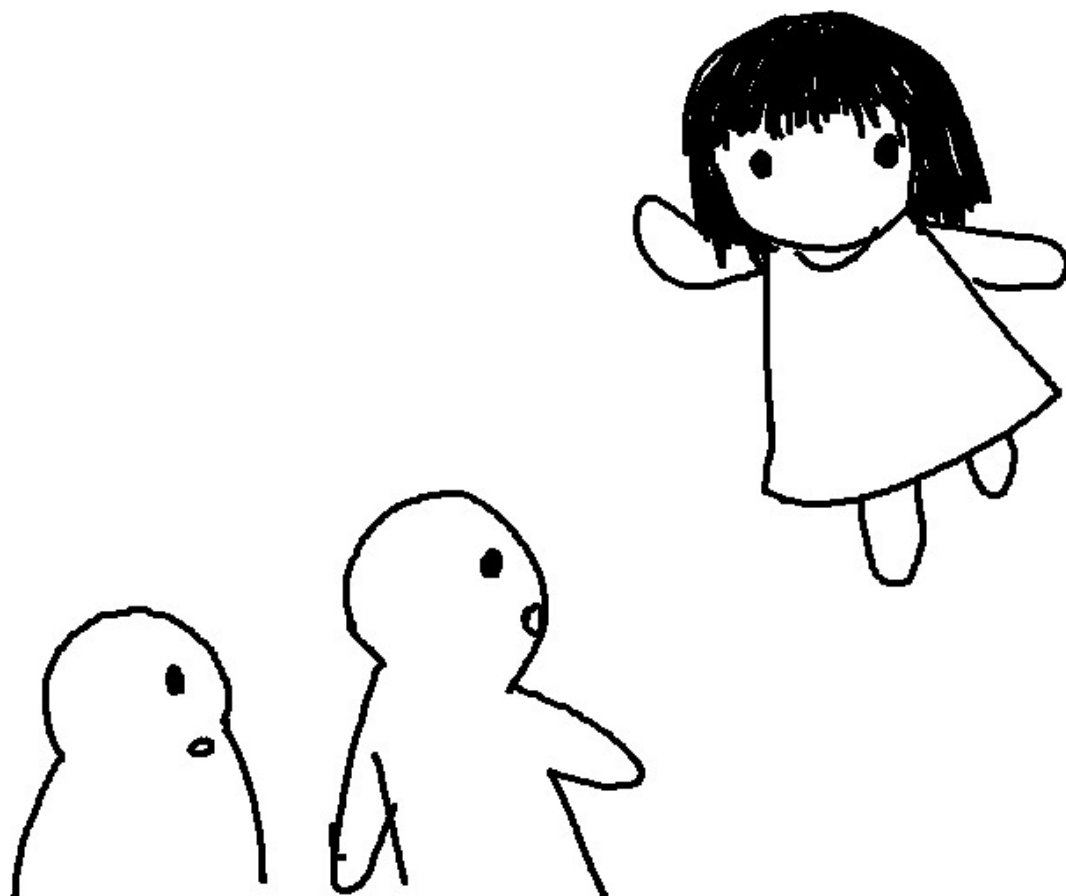
「そうだ！良い事思いついた！」



つまりちゃんは、その子供たちに走り寄りました。

「みんなー、お姉ちゃんにも浣腸して〜！」

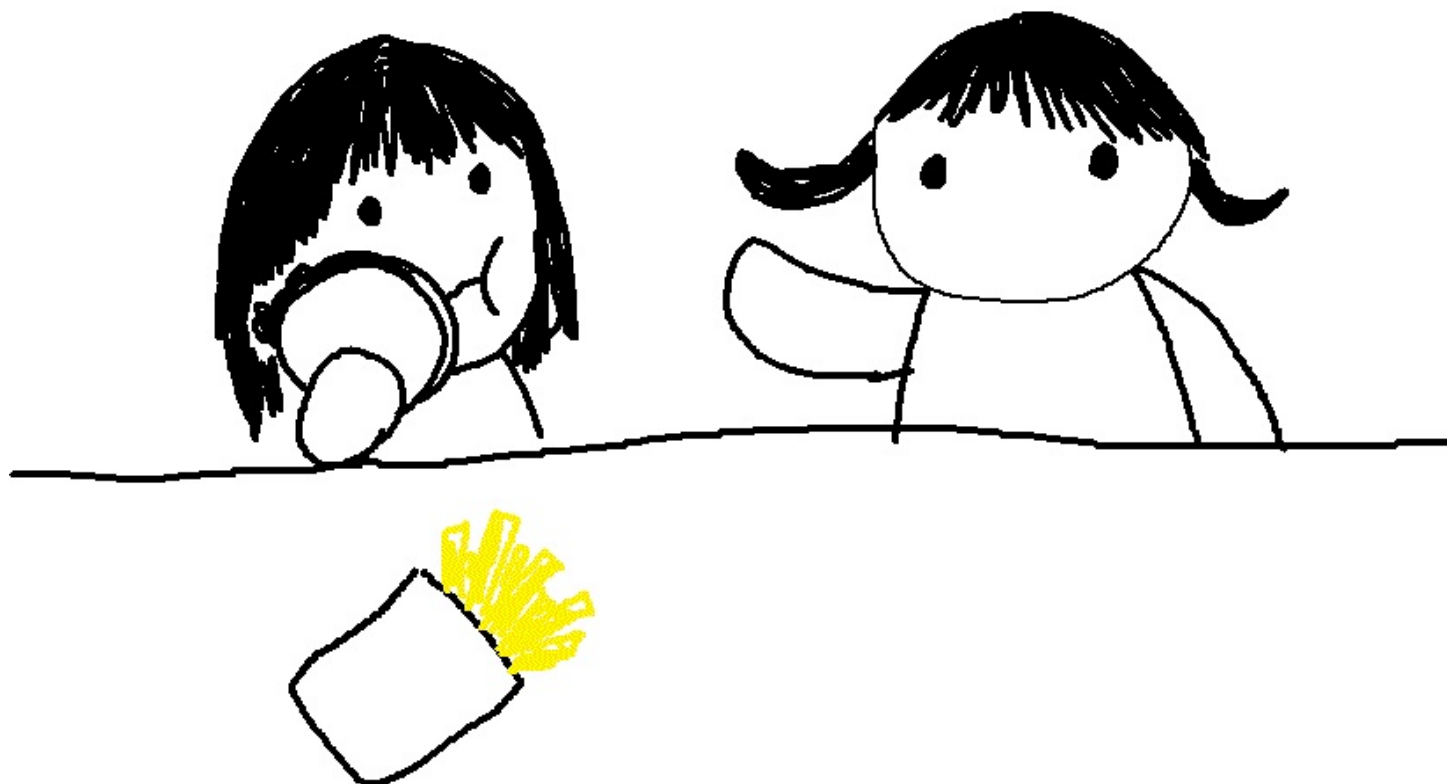
しかし、子供たちは戸惑いの表情を浮かべながら、足早に去って行ったのです。



次の日、近所の公園に注意書きが貼られました。

「このあたりに、変質者が出ます。子供に浣腸をせがむ、若い女性です。気を付けてください。」





それから間もなく、職場の同僚がつまりちゃんにこんな話をしました。

「知ってる？つまりちゃん！最近このあたりの子供たちの間でね、こんな怪談話が流行ってるの！」

浣腸遊びをしていると、浣腸女っていう妖怪がやって来て、私にも浣腸しろ～ってせがんで来るんだって！」

「何それ～？汚い話～！」

つまりちゃんは苦笑いしながら、食べかけのハンバーガーを食べ始めました。

つまりちゃんは、今日も便秘です。

【おしまい】